

「尼工生が何をできるようになるか。」体（教職員用）

資料2-4-3

目標

達成するために（具体的な取組）

評価指標

15 豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する

多くの生徒が部活動に入り、積極的に活動する。	→ 部活動に入り、積極的に活動する。また、他校の生徒との交流を深めたり、生涯の趣味や楽しみを見つける機会とする。	→ 4:80%以上の生徒が部活動で活動 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満
新体力テスト等を実施し、自身の体力や運動能力の状況を把握する。	→ 本校独自ではあるが、 <b>200m10周を15分以内</b> で完走することができる。	→ 4:80%以上の生徒が達成 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満

16 食生活を整える

自分の食生活を自分で管理し、健康を維持できる。今年度は、「毎朝、朝食をとる。」ことを重点化します。	→ 新入生リエンションで食事の大切さを学ばせる。食育に関するHRを実施する。家庭科の先生等に依頼し、食育講演会を実施する。食事に関するアンケートを実施する。	→ 4:3つ以上の取組をした 3:2つ以上 2:1つ以上 1:取組まず
---	--	--

17 安全の確保・感染症等予防のための能力・態度を育成する

AED、心肺蘇生法について対応することができる。	→ 教職員の80%以上が研修会に参加した。1年間で生徒の全員が操作方法を学ぶ機会を設けた。AEDの保管場所を全教職員が知っている。AEDの保管場所を全生徒が知っている。	→ 4:3つ以上達成できた 3:2つ以上 2:1つ以上 1:達成できず
熱中症について理解し、こまめな水分補給や休憩を自ら取ることができる。	→ 熱中症について研修資料を教職員の配布し理解している。熱中症について研修資料を生徒に配布し理解させている。生徒自身が、事前・事後に体調を正確に報告できる。生徒自身が活動中に十分な水分が補給できる。	→ 年間を通じて 4:熱中症発生が0人 3:熱中症の疑いが数名 2:例年と変わらず 1:指導しなかった
感染予防について正しい知識を持ち、実践できる。	→ 手洗い、マスク着用等感染防止を自らできる。いわゆる「3密」を避ける行動が自らできる。適切な運動やバランスの良い食生活を自ら配慮できる。早寝早起きなど規則正しい生活が自らできる。	→ 4:4つ以上指導した 3:3つ以上 2:2つ以上 1:1つ以下

18 粘り強さ 集中力を身につける

授業中の50分間、身体を起こすことができる。	→ 教科書等の音読、グループワーク、ディベート、発表を取り入れる。夜更かし（スマホ・ゲームの制限）させない。学ぶ意味を考え、文章にさせる。	→ 4:4つ以上指導した 3:3つ以上 2:2つ以上 1:1つ以下
機械・器具等を扱い、操作する最低限の体力を身につける	→ 1年生から段階的に操作する時間を増やす。次の操作がイメージできるまで訓練する。安全は服装（実習服等）を正しく着用させる。適度な休憩を入れ、長時間の操作に耐えられるようにする。	→ 4:4つ以上指導した 3:3つ以上 2:2つ以上 1:1つ以下

